平成30年4月の大阪森林便り



今月の木の話

木は電気を伝えにくい

- ・木材には電気を伝えにくいという性質があります。
- ・鍋の柄にはカバ、ブラシの柄にはブナが使われますが、これは静電気を伝え にくいという木材の特質を活かしているのです。
- ・よく乾燥した木材の電気抵抗は、大理石と比べても遜色ありません。
- ・ただし、木材は水分を含むと急に絶縁性が落ちます。

(日本林業調査会「木材に強くなる本」より抜粋)

林業ガール 相棒はIT 消える男女別職種

- ・2065年の日本。15~64歳の生産年齢人口は現在より約3000万人減少し、6割弱の規模になるといわれています。
- ・周囲にレーザーを飛ばし、生えている木の位置や太さ、曲がり具合まで精密なデータを計測。林業向け I T (情報技術) システム開発のベンチャーが手掛ける作業。
- ・2015年の林業従事者は45,000人で、平成に入ってから半減。しかも従事者の9割は男性です。
- ・短時間で生育状況を3D地図で再現し、計測した森林データの分析は在宅でも可能です。森の中での作業のきつさはありますが、これまでのような腕力はいらず女性にも簡単です。

(2018年3月22日 日本経済新聞記事から抜粋引用)





北米産丸太 据え置き 3月積み対日価格

原木、集荷順調

- ・北米産丸太の3月積み日本向け価格の交渉が前月と同水準で決着しました。
- ・丸太の品薄感が和らぎ2か月連続で据え置きとなりました。
- ・原木の集荷が順調に進み、船積み遅れが解消しました。
- ・米松丸太の商社売値は前月比1%上昇。運賃上昇を反映しました。 (2018年3月7日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



₹針葉樹合板、値上がり 国産、公共施設向け堅調 杉など丸太高も影響

- ・国産の針葉樹合板が値上がり。2月末に比べ2%上昇しました。
- ・原料となる杉や桧の丸太の値上がり。
- ・需要は堅調。非住宅分野向けの構造用合板の引き合いが伸びています。
- ・1月の出荷量は前年同月比7%増。
- ・合板などに使う中目用の杉丸太は前年同月比で1%高く、11カ月連続で前 年水準を超えました。ヒノキ丸太は前年同月比5%高で、5カ月連続で前年を 上回りました。
- ・1月の生産量は前年同月比8%増え、伸び率は出荷を上回ります。

輸入合板も上昇 原木伐採進まず

- ・輸入合板も値上がり。前月比2%上昇。
- ・1月の普通合板の輸入量は前年同月比11%減。最大産地マレーシアからは 前年同月比22%少なくなっています。

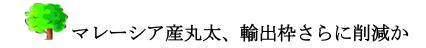
(2018年3月13日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



カナダ産製材品1割高 4~6月対日価格

品薄で過去最高

・ツーバイフォー住宅に使うカナダ産製材品の日本向け価格が一段高。前四半 期に比べ10%上昇し、過去最高。前年同期と比べても3割上昇しました。 (2018年3月16日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



値上がり続き感心高い

- ・マレーシア産丸太の輸出量が一段と減るとの観測。主産地サラワク州で7月にも丸太の輸出枠を、現状の伐採量全体の2割から1割に削減し、2018年には原則丸太輸出が禁止されるという内容。
- ・サラワク州産丸太の2017年の輸入量は前年比24%減。2007年の10分の1以下。価格も1年間で5%上昇し、1993年以来の高値。

(2018年3月30日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

